



19時からパパも子育て

子育てしやすいように職場環境を整えることは、従業員のやる気創出や業務の効率アップが期待できます。こうした取組の積み重ねが少子化克服への一歩です。子どもは社会の宝。仕事と子育てを両立しやすい環境づくりに会社全体で取り組んでいる企業へおじゃましてきました。



社会福祉法人平鹿悠真会（横手市）
特別養護老人ホーム悠西苑

業種:医療・福祉業 従業員数:36名

同法人が運営する、平成26年に開設した特別養護老人ホーム。ユニットケアによる開放型の施設づくりで、住民たちとともに地域福祉の構築に努めています。

働きやすい環境でより良い介護を
未来を見据えた人材の安定に向けて

「従業員の働きやすい環境を整えて、より良い介護サービスを提供しよう」。子育て中の従業員が多い悠西苑では、仕事と家庭の両立がしやすいように、毎週水曜日はノー残業デーを実施しています。今年の春からは、16時間夜勤で5通り程度だった介護担当者のシフトを8時間夜勤で21通りまで増やし、勤務時間も柔軟に対応できるようになりました。これに伴い、所定外労働による人件費も大幅に削減されたそうです。

少子高齢化が深刻に進んでいる今だからこそ、介護の現場では長く安定して働ける環境づくりが必要不可欠。施設の規模をひろげても、そこに働き手がいなければ、何も始まりません。人材の定着は、地域の未来づくりにも貢献します。



●従業員から
(技術員 横井さん、 看護師 阿部さん)

早い帰宅は、家族みんなのメリット

「定時で帰宅できる日は、息子が玄関で私の帰りを待っていてくれるようになりました。規則正しく生活できるのは、家族にとってもいいことだと思います。ノー残業デー以外の日も、きちんと仕事をして早く帰れるよう、お互いに助け、助けられながら日々の業務をこなしています」と横井さん。

「職場のそばにある託児所を利用しているので、子どもたちと一緒に出勤しています。残業がないとお迎えもラクです。早く帰宅できる分だけ、夕飯の支度や家事、子どもを寝かしつけるまでの全ての時間が早くなるので、本当に助かります。身体の疲れもしっかりと取れますし、勤務中は、時計を見ながら計画的に行動する習慣が身につきました」と阿部さん。



●職場から
(辻田施設長)

人が育ち、定着する施設づくりを

当施設では、「子育て中、未婚、遠方」の従業員が全体の約8割を占めています。「従業員が働きやすい環境にないと、いい介護ができない」という理事長の言葉をきっかけに、所定外労働の削減や、両立支援の取組みが始まりました。日頃から従業員が早めに帰宅できるよう、我々リーダーやサブリーダーが、定刻になると施設内をまわって、積極的に声掛けを行っています。以前は夕方から始めていた定例の職員会議も、現場からの提案があり昼間の時間帯に変更しました。

漫然とした状態では、進歩も発展もありません。介護サービスと職場環境を充実させるためには、従業員がひとつの輪になって協力し、みんなが同じ方向を見ていくことが大切だと思います。



効果が見られた点

- ◎「ノー残業デー」の実施は両立支援に大きな効果。
- ◎労働環境の見直しは、利用者と従業員の満足度を高める。